

名城同窓会ニュース

名城大学附属高等学校同窓会 〒453-0031 名古屋市中村区新富町 1-3-16 TEL (052) 481-7436

令和8年3月1日発行

第50号

発行者 福江 美智子

同窓会ニュース50号を迎えて

同窓会ニュースが第50号を迎え、さらに母校は開学100周年という大きな節目を迎えました。この二重の慶びを、同窓生の皆様と共に分かち合えることを心よりうれしく思います。

創刊以来 50 年、同窓会ニュースは、在校生の活躍や母校の歩みを伝える大切な架け橋として発行され続けてきました。紙面を通じて、今の高等学校の様子や恩師の言葉に触れ、時を超えて再び母校とつながる感覚を覚えた方も多いことでしょう。

また、100 周年という歴史の重みは、私たちが過ごした日々が確かにこの長い物語の一部であったことを実感させてくれます。今を生きる在校生たちがこれからの未来を築いていく中で、私たち同窓生もまた、経験や知恵を共有しながら、母校を支えていける存在でありたいと願います。

これからも、同窓会ニュースが世代をつなぎ、名城の絆をより一層深めていくことを期待し、心からの祝福と感謝を込めて、この記念号をお届けいたします。



目次

●ご挨拶	2	◆部活動報告		●新任教諭紹介	15
●同窓会新役員(第19期)紹介	2	メカトロ部	9	●退任教諭紹介	15
◆トピックス(同窓会事業)		ウエイトリフティング部	10	●学年同窓会を開催しました	16
同窓会総会(100周年記念同窓会)開催のご案内	3	柔道部	11	●「名城大学附属高等学校ゆかりの物品」寄贈のお願い	16
普通科ガシンカ(進化、深化、新化、伸化、真化)	4	スキー部	12	●募金・寄付のお願い	17
◆トピックス(行事)		空手道	12	●名城大学附属高等学校同窓会執行部会	17
新第二体育館竣工	5	体操競技部	13	●令和7年度事業報告	18
名城オリンピック	6	陸上競技部	13	●令和7年度収支決算	18
芸術鑑賞会と文化祭	6	ダンス部	14	●令和8年度事業計画	18
◆トピックス(教育)		SSH	14	●令和8年度収支予算	18
第4回「探究Day」開催	7			●校歌	19
SSH東海フェスタ2025開催!	7			●特殊詐欺対応	20
「令和7年度 SSH生徒研究発表会-SSH Students Fair 2025-」報告	8			●編集後記	20
				●巻末	20

ご 挨 拶

名城大学附属高等学校同窓会
会 長 福 江 美智子

会員の皆さま方におかれましては、同窓会活動にご理解・ご協力を賜り、誠にありがとうございます。また、今年度新しく同窓会に入会されました卒業生の皆様、ご卒業おめでとうございます。

名城大学附属高等学校同窓会会長を務めさせていただいております平成 15 年卒業生の福江美智子でございます。今日まで歴代会長をはじめ、多くの役員の皆様、同窓生並びに地域の皆様のご尽力によって築かれました本会の歴史と伝統を大切にしながら、微力ではございますが、同窓会の充実発展に向けて誠心誠意努力して参る所存でございます。皆様方のご支援ご協力をよろしくお願い申し上げます。

さて、卒業生の皆様におかれましては、これから進学される方をはじめ、様々なフィールドでご活躍されることと思います。その中で、今では想像がつかない環境の変化があるかもしれません。事実、私が高校を卒業した際には、全科の男女共学化、SSH（スーパーサイエンスハイスクール）の指定など、今の附属高校を想像することはできませんでした。しかし、変わらないことは、高校での学び、友人関係、思い出たちです。特に、名城大学附属高校の教育の特色である「生きる力」を十分に付けられたことと思います。今は、ご自身の中で実感が湧かない方もおられるかもしれませんが、これから社会にでた際には必ずこの力は皆さんの武器になり、変化を楽しむことができることでしょう。名城大学附属高等学校生としての誇りを胸に、益々ご活躍されますことを心より期待しております。

最後になりますが、今年は開学 100 周年という記念の年です。開学 100 周年記念事業の実現と成功に導くためには、卒業生の皆様のご理解とお力添えがなくては成し得ることはできません。是非とも、これを機に同窓会事業への積極的なご参加をお待ちしております。

名城大学附属高等学校と同窓会の益々の発展のため、同窓会役員一同、努めて参りますので、今後も末永く、会員の皆様方のご支援を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

同窓会新役員（第19期）紹介

第 19 期の任期は、令和 8 年 4 月 1 日から令和 10 年 3 月 31 日までとなります。

【第19期 同窓会役員名簿】

役 職 名	氏 名	役 職 名	氏 名
会 長	近 藤 千 春	名 誉 顧 問	伊 藤 憲 人
副 会 長	日 置 慎 二	顧 問	岡 充 彦
監 査	鈴 木 礼 治	顧 問	杉 山 豊 美
監 査	長 尾 真 里 子	名 誉 会 長	中 島 健
書 記	鎌 田 直 洋	名 誉 会 長	武 村 學
学内幹事(会計)	出 田 秀 二	相 談 役	後 藤 健 太 郎
学内幹事(庶務)	二 宮 敦	相 談 役	紀 平 知 大
		相 談 役	福 江 美 智 子

同窓会総会(100周年記念同窓会)開催のご案内

拝啓 早春の候、皆様におかれましてはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、本校は1926年の名古屋高等理工科講習所の開学以来、数多くの卒業生の皆様に支えられながら歩みを続け、2026年、開学100周年という大きな節目を迎えることとなりました。

この100年の歴史は、まさに皆様お一人おひとりの温かなご支援とご厚情の積み重ねによって築かれたものであり、心より深く感謝申し上げます。

つきましては、この喜びを分かち合い、これまでの歩みを振り返るとともに、次の100年への希望を語り合う場として、附属高等学校同窓会主催による開学100周年記念式典および祝賀会を下記の通り開催いたします。

懐かしい恩師や旧友との再会のひとときを、ぜひお楽しみいただければ幸いです。

ご多忙の折とは存じますが、皆様のご出席を心よりお待ちしております。

MEIJO University Senior High School

100th
Anniversary

名城大学附属高等学校
100周年記念同窓会

名城大学附属高等学校は、2026年に開学100周年を迎えます。
これまでの歩みに支えてくださった卒業生の皆さま、この節目の年を祝い、
新たな歴史を刻む「100周年記念同窓会」を開催いたします。
懐かしい仲間や恩師との再会、そして次の100年へ向けた想いを共有するひとときに、ぜひご参加ください。
皆さまの笑顔にお会いできることを心より楽しみにしております。

2027.2.7(日) お昼頃の開始を予定しております

会場 名古屋観光ホテル 名古屋市中区錦一丁目19-30
TEL: 052-231-7711(代表)

2026年夏頃に詳細情報および申込の情報をご案内します
名城大学附属高等学校HP内にてお知らせします

主催：名城大学附属高等学校 同窓会

記

日時： 令和9年2月7日(日) お昼頃の開始を予定しております
会場： 名古屋観光ホテル
内容： 名城大学附属高等学校100周年記念同窓会
主催： 名城大学附属高等学校同窓会 100周年記念同窓会実行委員会
共催： 名城大学附属高等学校

お問合せ：

〒453-0031 名古屋市中村区新富町1丁目3番16号

Tel: 052-481-7436

Email: 100th@meijo-h.ed.jp



動画



チラシ

敬具

令和8年2月吉日
名城大学附属高等学校
同窓会長 福江 美智子
校長 伊藤 憲人

普通科がシンカ(進化、深化、新化、伸化、真化)

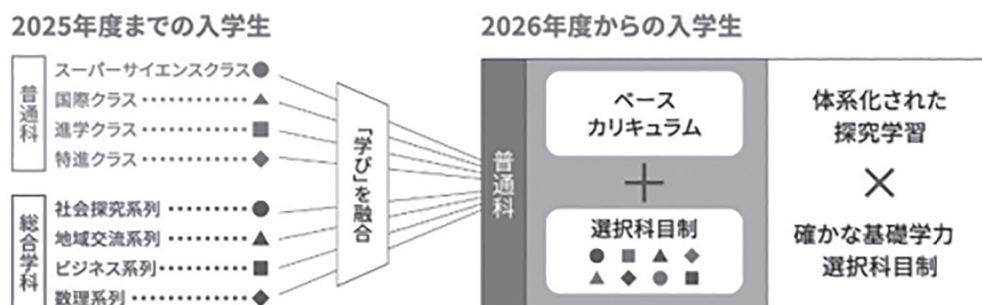
附属高校が変わります

2026年度入学生から普通科のみの募集となります(募集人員はこれまでどおり約640名)。

これまでの学びを融合し、次のステージに向けて、カリキュラムや探究活動がどのように変わるのか、ポイントをご紹介します。

●これまでの科、クラス、系列を融合

普通科内の「スーパーサイエンスクラス」「国際クラス」「進学クラス」「特進クラス」の区別はなくなります。普通科各クラス、総合学科各系列で行ってきた特徴ある授業内容、探究活動を融合し、「探究の名城」をさらに発展させていきます。



●多様な進路選択に柔軟に対応

「ベースカリキュラム+選択科目制」と「体系化された探究学習」が、カリキュラムの柱となります。生徒は共通する教科・科目に加え、目指す進路に合った選択科目を受講し、興味・関心に応じて探究に取り組みます。大学のように自由度が高い学びが可能となり、多様な進路選択に柔軟に対応します。

●選択科目の充実

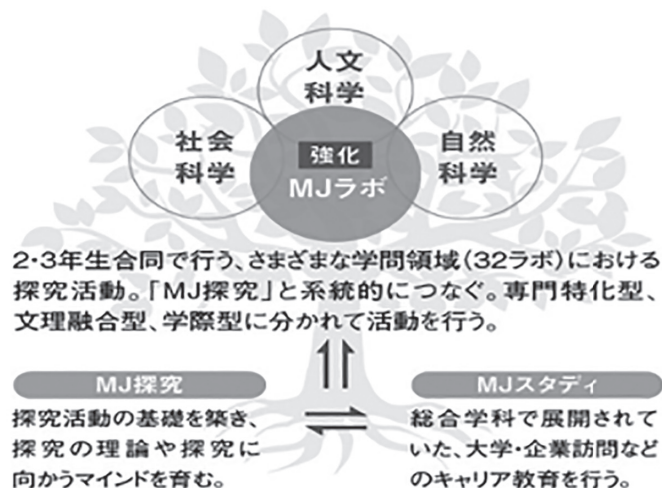
2年生では、生徒の興味・関心を深化・拡大する多様な科目を選択可能。3年生では、進路目標に合わせて科目を選択し、個別化・重点化した学びに取り組むことができます。

新カリキュラムのイメージ

1年	共通する教科・科目	探究科目
2年	共通する教科・科目	選択科目・探究科目
3年	共通する教科・科目	選択科目・探究科目

●探究の体系化

SSH(スーパーサイエンスハイスクール)・SGH(スーパーグローバルハイスクール)事業や総合学科でこれまでに培ってきた探究学習を体系化するとともに深化させます。さまざまな分野の活動を融合させながら、生徒一人ひとりが多角的な視点を持った課題発見・解決力を身に付けていきます。



新第二体育館竣工

令和5年10月23日、母校第二体育館が火災により焼失するという予期せぬ出来事がありました。生徒たちの学びと活動の場を失ったことは、学校関係者のみならず、多くの思い出をお持ちの同窓生の皆様にとっても大きな痛手であったと思います。

同窓会会員の皆様からの温かいご支援とご寄附もあり、令和7年8月5日、新しい第二体育館が無事竣工しました。新体育館は、太陽光発電システムや最新の空調設備を備え、安全で快適な環境を整えています。さらに、バリアフリー対応のトイレやスロープ付きの入口など、誰もが利用しやすい施設となりました。

この体育館は、皆様のご厚意とご協力の結晶です。「名城高校応援プロジェクト」等を通じてお寄せいただいたご寄附は、単なる資金援助にとどまらず、未来を担う生徒たちへの力強いエールとなったと考えます。本当にありがとうございました。

同窓会といたしましては、今後も学校の教育活動を支援し、母校のさらなる発展に寄与してまいります。引き続き、皆様のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



外観北東面



アリーナ

名城オリンピック

6月18日～20日、今年度も無事に名城オリンピックを開催することができました。例年は雨が降ることによって全種目が行えないことが多いですが、今年度は天気が良すぎたために気温が上昇し、熱中症の対策に力を注ぎながらの実施となりました。学年ごとに河川敷競技を実施し、炎天下の中外にいる時間を減らす、体育館を活用し室内での競技時間を増やすなどの対応をしました。一方で競技はもちろん、今年も応援も盛り上がり、生徒たちにとっても満足のいく学校行事になったと思います。いよいよ来年度は100周年の年を迎えます。生徒全員で盛り上がるができるイベントにするため、皆で協力してアイデアを出していきたいと思います。

同窓会から熱中症対策としてのドリンクの差し入れもして頂き、全校生徒に配布することができました。

【名城オリンピック結果】

総合優勝 3S2

準優勝 3S1

3位 1S2

芸術鑑賞会と文化祭

10月8日に芸術鑑賞会、10月9日、10日に文化祭が開催されました。

芸術鑑賞会は、二部入れ替え制で開催しました。今年は「クローゼットQ」という舞台を全員で鑑賞しました。創りこまれた演劇の奥深さを体験できた、素晴らしい時間となりました。

文化祭は、今年度も食品バザーを実施することができ、バリエーション豊かな店が並び、生徒が目移りしながらも、楽しそうに過ごす姿を見ることができました。PTAの方々のみたらし団子やくじも大盛況で、おかげさまで活気のある充実した文化祭になりました。同窓会のブースにも多くの方が訪れ名城高校の歴史を感じていただくことができました。また、今年度は開会式では3年生全員が体育館に集合し、教室にも中継をしながら全員でカウントダウンをして始まりの時間を共有し、閉会式では1・2年生全員が体育館に集合し、フィナーレは各クラスの代表者がランタンを上げるという形で行いました。例年限られた人数で行ってきた開会式・閉会式を今年度のような形にしたことで一体感が生まれ、例年以上に団結力を感じられる学校行事となりました。文化祭も100周年に向けて、より熱量の高いイベントにしていきたいと考えています。

【文化祭特別賞】

技術賞 2A17

芸術賞 2A2

斬新賞 3A4



第4回「探究Day」開催

2025年2月20日と2月26日に「令和6年度探究Day2024」を実施しました。これは全校生徒がコースや学年の枠組みを越えて「混ざる」ことにより、多様な視点から社会課題とその解決に向けた探究に取り組み、次年度の探究活動につなげていくことを目的に行っているもので、令和6年度で4回目を迎えました。

生徒実行委員の運営のもと、課題の理解を深め、1教室に1名いる助言者に適宜助言をもらいながら、課題解決に向けた方策（プロジェクト）について議論を通して検討し、発表する形式で行いました。令和6年度は1,365名の生徒を262グループに分け、45名の外部からの助言者の方にご協力いただきました。生徒実行委員会は全校からの希望者30名で組織して、準備から当日の運営まで主体的に活動しました。

令和6年度のテーマは「名城生ができることはなんだ？ 世界・地域・周りの困りごとに挑め！～実行可能なアクションプランを考えよう！～」でした。Day1の2月20日には基調講演として星 浩氏（中日新聞 編集委員）にお話をいただくとともに、各グループのアイスブレイクをオンラインクイズ形式で実施しました。Day2ではテーマに沿って各グループで協議を行い、助言者からのアドバイスをいただきながら、自分たちのアクションプランを考えました。オープンアワーの時間では聞き取り調査や助言者の方にアドバイスをもらう等、生徒なりの考えをもとに様々な活動を行う様子がみられました。アイスブレイクやプラン発表を含めiPadを有効に活用できました。アンケート結果からも目的に沿った学びの多い取組になったと思います。



○アンケート結果（一部抜粋）

「グループワークによく参加できた」84%

「自分と異なる視点に気づかされることはあった」88%

「「探究」について理解が深まった。」77%

- ・初めて会う人と話し合うのは緊張しましたが、なかなか他学年や他クラスとの交流がないため楽しい経験でした。
- ・探究を通して知り合った班の人とたくさん話せて楽しかった。普段あまり目向けないことに対して深く考えることができた。

SSH東海フェスタ2025開催！



2025年7月19日（土）、名城大学天白キャンパスで本校主催「SSH 東海フェスタ 2025」を行いました。これは、愛知、岐阜、三重、静岡のSSH指定校を中心に他地域の学校を含めて開催する生徒研究発表会です。今年度は関東から2校、タイから1校を含めた26校、約800名の参加により実施しました。本校からはSSクラス3学年と特進クラスの「理数探究」代表者が参加しました。

午前中の口頭発表分科会では各校の代表が5つの分野に分かれて発表しました。どの研究も学校の代表というだけあって、高いレベルの研究が多くありました。質疑応答も鋭い質問が多く、参加者は意欲的でした。講評は名城大学の理系学部の学部長と産業技術総合研究所の先生が行ってくださいました。

午後は各校の代表ポスター発表、一般ポスター発表が行われ、自由な発表や議論が活発に行われました。共同研究の募集を呼びかける発表者も多く、日頃の成果の発表だけでなく更なる研究の発展に向けて有意義な時間となったようです。連日の暑さに負けずに活発な議論が繰り広げられました。

さらに、後半では口頭発表全体会として午前中の審査の結果選ばれた、5校の口頭発表が行われました。650名収容の名城ホールに加え、サテライト会場も設けて参加者全員で発表を聞きました。審査の結果選ばれた学校の発表はどれも素晴らしいものでした。

最後には審査の結果選ばれた学校は表彰され、盛況のうちに終えることができました。アンケート結果からは95.8%の生徒から「今回のフェスタに参加して、研究活動に対する意欲が増しましたか？」に対して肯定的な回答を得ることができ、今後の課題研究の発展に寄与できました。

「令和7年度 SSH生徒研究発表会 -SSH Students Fair 2025-」報告

2025 年 8 月 6 日～7 日にかけて、文部科学省等が主催する「令和 7 年度スーパーサイエンスハイスクール生徒研究発表会」が神戸国際展示場で開催され、SS クラスの第 3 学年 1 名、第 2 学年 2 名が参加しました。

今年度の本校の代表は「SS ラボⅡ」の授業で取り組んだ、「ダルマメダカは警戒行動を示しにくい?!～体型が異なるメダカにおける行動パターンと原因について～」について発表しました。

これは、脊椎骨の癒着により体の丈が短くなったメダカとして知られているダルマメダカの行動について、正常体型のメダカと比較したものです。運動能力や形態的特徴から警戒行動の示し方に違いがあることが示唆されました。

1 日目のポスター発表では多くの学校の生徒たちに興味を持ってもらうことができ、活発な議論をすることができました。また、他校の先生方にも発表を聞いていただくことができ、研究のさらなる発展につながる貴重なアドバイスを得ることができました。特に 1 日目は SSH 指定校以外の会場近隣の学校や、発表者以外の高校生の参加が多く、休む暇もないほど活気にあふれる状況でした。審査の際には緊張しながらも一生懸命発表している様子が印象的でした。残念ながら代表発表には選ばれませんでしたでしたが、充実した時間となりました。

2 日目には代表校の 12 校の発表が行われました。代表に選ばれる学校の発表はオリジナリティがあり、一つ一つ丁寧にデータを積み重ねている様子が印象的でした。愛知県からも 2 校が選出されており、大変刺激になりました。午後にはあらためてポスター発表が行われ、この日に会場に訪れた本校の SS ツアー参加生徒たちに囲まれて楽しそうに発表していました。

次年度は代表校に選ばれるよう、参加した第 2 学年の 2 名や SS ツアー参加者に期待したいと思います。



全国大会等に出場した部活動等報告

メカトロ部

- ◆U-18 AIアスリート選手権大会シンギュラリティバトルクエスト2025万博会場決勝大会
データクエスト第1位 (普通科3年生 高木 萌生・総合学科3年生 須賀 有司
総合学科3年生 高田 悠翔)
- ◆U-18 AIアスリート選手権大会シンギュラリティバトルクエスト2025万博会場決勝大会
データクエスト第3位 (総合学科3年生 伊藤 陽生)
- ◆U-18 AIアスリート選手権大会シンギュラリティバトルクエスト2025万博会場決勝大会
AIクエスト第3位 (普通科3年生 高木 萌生・総合学科3年生 須賀 有司
総合学科3年生 高田 悠翔)
- ◆U-18 AIアスリート選手権大会シンギュラリティバトルクエスト2025万博会場国別選考会
ロボクエスト第1位 (総合学科3年生 伊藤 陽生)
- ◆WRO Japan 2025決勝大会エキスパート部門 出場
(普通科1年生 廣瀬 夕哉・普通科1年生 鈴木 九天・総合学科3年生 伊藤 陽生)

『メカトロ部の活動紹介』

顧問 木下 崇

メカトロ部は、3つの大会(① AI アスリート選手権② WRO ③堀川エコロボットコンテスト)を軸に活動しております。① AI アスリート選手権は、作成したAIを用いて様々な問題を解決する精度を競う大会です。② WRO は、LEGO を使って様々なお題を解決しながら精度と時間を競う大会です。③堀川エコロボットコンテストは、堀川のゴミ問題や水質改善の為にロボットを披露する大会です。今後とも応援のほどよろしくお願いいたします。

『メカトロ部で学んだこと』

総合学科3年生 伊藤 陽生

メカトロ部では、興味があることを自由に取り組み、日々部員同士で活発に意見交換を行っています。部室には3Dプリンターやレーザーカッターといった設備があり、部員が思い思いに活用しています。

私は、メカトロ部に入部した当初、ゲームの拡張機能を作ることを目指していましたが、ロボットの製作に夢中になってからは、先輩から機体の制作や、プログラムのアドバイスをもらい知識を蓄えてきました。2年生からはWROに出場しました。2年生は、惜しくも地区大会で敗退しましたが、3年時には地区大会を3位で突破し、全国大会へ出場することができました。また、1年生からAIアスリート選手権にも出場し、全国大会での上位入賞や世界規模の大会にも出場も果たすことができました。私は、メカトロ部で技術は勿論ですが、「仲間の大切さ」を1番学びました。メカトロ部の活動は、個人で活動する場面が多いです。しかし、「これがやりたい!」となったときは、他の分野で活躍する部員からアドバイスをもらいます。私たちは、知識の提供を惜しむことはありません。私たちは、「やりたい」に全員で挑戦する部活です。そして、私たちは、学年を超えてチームを組むことが多いです。活動には、意見の衝突がつきものです。それも含めて目標に向かう経験は、技術力以上に私を成長させてくれたと感じています。メカトロ部で得た知識や技術、そして何より大切な仲間との絆は、これからの人生においても大きな財産です。



ウエイト リフティング部

◆令和7年度 全国高等学校総合体育大会 出場
男子55kg級 (八神 信也、森 悠陽)、男子61kg級 (竹内 佑綺)
男子89kg級 (水野 颯人)

『精進』

普通科3年 竹内 佑綺

私はウエイトリフティングに出会ったことで、たくさんの成長を経験しました。

初めて生の試技を目にしたときは、そのあまりの迫力と重量感に驚きを隠せませんでした。「先輩みたいに強くなりたい!」と強烈な憧れを抱き、入部を決意しました。

入部当初は、日々成長する技術や筋力に大きな達成感を感じ、競技に夢中でめり込んでいました。しかし、周りの仲間の記録は伸びているのに、自分の記録だけが停滞する苦しい時期がやってきました。焦りから実力以上の重量を扱うようになった結果、疲労骨折という形で長期離脱を余儀なくされました。

競技ができない間は、「遅れをとらないように」と怪我をしていない部位のトレーニングに励みました。

復帰後、たくさんの試練を乗り越えて迎えた全国選抜予選会。基準記録を挙げることはできたものの、わずかにボーダーを超えることができず、出場資格を得られませんでした。このとき、「もう、どう努力すればいいかわからない」と、精神的に大きく崩れかけました。

そんな私に、副顧問の原田先生が「竹内がしてきた努力は決して無駄じゃない。まだやれることはある」と、力強く声をかけてくださりました。

私はこの言葉で気持ちを切り替え、練習内容だけでなく、食事や睡眠といった部分にも更に意識を配るようになりました。地道な努力を積み重ねた結果、昨年度の入賞レベルの重量を挙げられるまでに成長し、これまでにない達成感を感じることができました。

その一歩ずつの成長が実を結び、迎えたインターハイ出場。結果は「あと一歩で入賞」というものでしたが、不思議と後悔は一切なく、「やり切った」という満足感でいっぱいになりました。

客観的に見れば、大記録を成し遂げたわけではありません。ですが、多くの試練を乗り越え、諦めずに努力したこの軌跡は、私を大いに成長させてくれたと確信しています。

私を支え、導いてくださった全ての人に、感謝の気持ちでいっぱいです。

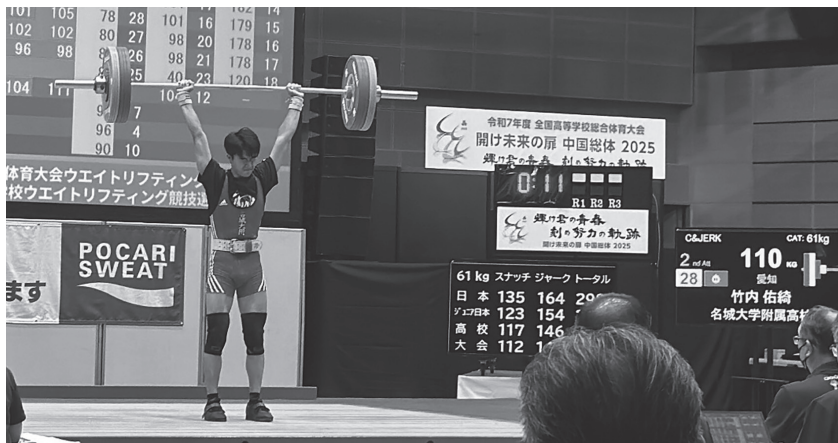
『出会い』

普通科3年 水野 颯人

私はウエイトリフティングに出会って、高校入学時から想像の出来なかった3年間になりました。当時どの部活にも入る気なかった私がウエイトリフティング部に入ったきっかけは、1年時の数学の教科担任が顧問の山中先生で、その時に勧誘を受けたことです。いざ部室に入ると、100キロを軽々と挙げる先輩や響き渡るバーベルの落下音など、異様な雰囲気気が漂っていました。やるからには本気でやってみようと思い、当初から目標をインターハイ出場に定め、入部することを決意しました。しかし、最初は思うように進みませんでした。同級生が記録を伸ばしていくなか、私は入部半年で腰の怪我に見舞われ、練習も満足に出来ないこともありました。それでも、休むことなく練習を続けました。徐々に記録が伸びていき、3年時にはインターハイの予選前の2ヶ月間でトータル20キロ伸ばすことが出来て、インターハイの出場が確定しました。インターハイでは、入賞とは程遠い記録ではありましたが、それでも全国の舞台で今までの自身の記録を更新することが出来た時は、今までの努力が報われた瞬間だったと思います。

私にとってこの3年間は、厳しい練習に耐える忍耐力や練習を続ける継続力、最後まで諦めない精神力を身につけることが出来た時期にもなりました。それは、毎日支えてくれる家族や指導してくれる先生、そして日々苦楽を共にした仲間のおかげでもあると思います。入学時にはなにも功績のなかった1人の高校生が、ウエイトリフティングに出会い、全国大会出場という結果を残すことが出来ました。

最後になりますが、ここまで関わった方々に感謝します。3年間ありがとうございました。



柔道部

- ◆第47回 全国高等学校柔道選手権大会 出場
男子団体 (平山 祐斗、増田 太陽、村瀬 大輔、永井 陸登、浅井 陽太、稲垣 英蔵)
女子個人 (田口 百桃)
◆令和7年度 全国高等学校総合体育大会 出場
女子個人 (田口 百桃)

『努力が実を結ぶまで』

普通科3年 田口 百桃

私は中学校時代、県大会で入賞したこともなく、全くの無名の選手でした。そのため高校に入学したばかりの頃は、毎日の練習は上手いいかないことばかりで、誰と練習していても歯が立たないような状態でした。でもそんな中でも、顧問の松下先生やコーチの先生方は私に練習中にたくさんアドバイスをくださったり、成長した部分を認めてくださったりして、そのおかげで私は「もっと強くなりたい」という思いを持ち続けて粘り強く努力することができるようになりました。

私は練習の中で、上手いいった時にも、いかなかった時にもその原因を追究して、改善したり再現したりするにはどうすれば良いのか考えて次に繋げる、というサイクルを繰り返すことで少しずつ成長を積み上げるようになってきました。ですが努力というのは、いつもすぐに実を結ぶわけではなく、頑張っているのに成長が感じられずに苦しい時期も多くありました。頑張っているもなかなか目に見えて成果の出ないときというのは、例えるとすれば数独でマスを埋めるために候補の数字を書き出しているような感じで、なかなか答えが見つからず、周りからも評価されず苦しいことも多い時間です。それでも、諦めずに地道な努力を積み重ねているうちにその努力のひとつひとつが繋がって行って、ぐんと一気に成長することができます。一見すると、突然に成長を遂げたようにも見えますが、長い時間をかけてやってきた地道な努力があってこそ、それらがつながった時に大きな成長を実感することができる、ということを私は高校での部活動を通して学ぶことができました。

このように成長を繰り返しながら、全国大会出場や、東海地区大会優勝などの結果を出すことができたことは私にとってひとつの自信になりました。でもまだ、「日本一になる」という目標を達成することはできていないので、支えてくださる全ての人に感謝しながら、こだわりを持って練習をして、日常の中から小さな努力を積み重ねてもっともっと強くなって大学では日本一になりたいです。

◆国際大会出場

『考える柔道で挑戦』

総合学科2年 稲垣 英蔵

僕はハンガリーで開催された柔道のヨーロッパカップに出場しました。海外の選手は柔道以外にレスリングやサンボといった柔道に似ているスポーツの技を多く取り入れ力の強さを活かした柔道をします。

日本の柔道のスタイルとは大きく異なるので試合に向けて部活の先輩や卒業生の方、先生方に協力してもらって試合に勝つために準備をしました。日本と海外ではルールが違うのでそういった中でどうやって自分の柔道を出せるのかたくさん考えました。

練習の中で相手にお願いをして海外の選手のような柔道をしてもらったり、強い選手の動画を見て自分に合うものを取り入れてどうしたら勝てるのか考える毎日でした。

顧問の松下先生はミーティングで「考える柔道」についてよくお話しされます。練習中にただ決められたメニューをやるのではなく、どうやったら投げれるのか、なぜ投げれるのかを考えて頭を使った柔道をするのを普段から心がけています。

強くなるためには普段の食事、睡眠、今のトレーニングはどこに活かせるのかなど練習以外のことも柔道と結びつけて考える必要があります。トレーニングではコーチの水野先生にフォームやパワーアップするための重量を設定してもらい自分の身体にあった方法を教えていただきました。

どうやったら昨日の自分を超えられるかを毎日考えることで僕は成長することができました。そうした練習ができたのは何の不自由もなく支えてくれた両親のおかげです。

試合は1回戦で負けてしまいましたが、最後まで自分らしく戦えたのは周りの方々の応援があったからです。試合前日に柔道部の仲間からの連絡を見たときはとても心強く緊張していましたが自分に自信を持つことができました。

恵まれた環境で、素晴らしい先生方や仲間たちと一緒に柔道ができる自分は本当に幸せです。この経験を全国大会の予選で活かせるようにこれからも頑張ります。

ありがとうございました。



スキー部

◆令和6年度 全国高等学校総合体育大会 出場

アルペン (真鍋 俊)

クロスカントリー (児玉 綾香、舩橋 和花、藤原 沙月、太田 祐、宮川 壮平、足立 壮、粕谷 柚月、山本 拓真、松葉 吉哉)

普通科3年 真鍋 俊

中学3年生の秋、僕は進路を変えました。小さな頃から基礎スキーを続けてきた僕は、スキーの魅力にどんどん惹かれていきました。スキーが好きになるにつれ、幼い頃に出場したアルペンの大会を思い出すことが増えました。そこで高校ではアルペンスキーにも挑戦したいと思うようになり、第一志望校を名城大学附属高校に決めました。

名城高校に入学してスキー部に入ると、明るい雰囲気のおかげで新しい生活にすぐ馴染むことができました。1年生の練習や合宿では、顧問の白戸先生をはじめ、コーチや先輩方に丁寧に指導していただき、アルペンスキーの面白さを強く感じました。インターハイ予選後には怪我で滑れない時期もありましたが、その悔しさがあったからこそ、練習を見直し成長につなげることができました。2年生での合宿では、全体練習後にも個別で指導していただき、質の高い練習を積むことができました。

父には毎週スキー場に連れていってもらい、練習にも付き合ってもらいました。板のメンテナンスや用具について調べて支えてくれ、母は生活リズムに合わせた食事などから支えてくれました。

インターハイ予選では滑落して失格となり、後に脳震盪だったと分かりました。しかし、ライバルでもある仲間の支えのおかげで、翌日の別種目でインターハイ出場を決めることができました。インターハイではOBコーチの吉田先輩に、国民スポーツ大会では愛知県スキー連盟の方々に引率していただき、全国の舞台で戦う経験を得ることができました。

僕が全国大会に出場できたのは、支えてくださった多くの方々のおかげです。高校生活を通して、人に支えられることの大切さと仲間の尊さを実感しました。この経験は、これからの人生を支えてくれる大切な財産です。3年間、本当にありがとうございました。



空手道

◆令和7年度 全国高等学校総合体育大会 出場

男子個人 形 (丹羽 壮眞)

『高校最後の舞台で見た成長』

普通科3年 丹羽 壮眞

今回、2度目のインターハイに出場しました。高校生活最後の大会を終えて振り返ると、本当に多くの経験がありました。昨年のインターハイでは納得のいかない結果に終わり、非常に悔しい思いをしました。その悔しさこそが、もう一度自分を強くしてくれた原動力でした。

あの日を越えるために、道場を経営する父のもとで、一つ一つの練習に意味を持たせ、形や技を徹底的に磨き、改めて自分自身と正面から向き合いました。その中で感じたのは、空手は単なる「部活動」ではないということです。仲間と取り組む楽しさも確かにありますが、空手の本質は「自分と向き合うこと」にあります。誰にも頼らず、自分自身と向き合い続け、自らを成長させる修行だと私は考えています。

また私は、陸上競技部にも所属し、短距離種目を専門に練習と大会に取り組んできました。陸上のおかげで基礎体力や筋力を鍛えることができ、それが空手に活かせることができました。

空手と陸上を3年間両立することは決して簡単ではなく、途中で挫折そうになることもありました。しかし、家族や友人、先生方の支えがあり、続けることができました。両方に取り組んだからこそ、それぞれが良い刺激となり、自分を高めることができました。そして大会当日、全国の強豪選手たちと戦う中で、自分の弱さや限界を感じる場面もありましたが、昨年より順位を上げることができました。

5歳から空手を始め、13年間取り組んできて感じるのは、将来につながる貴重な経験を積むことができたということです。空手から学んだことは数え切れないほどあります。このインターハイをもって、私は選手としての空手を引退します。これからは次の世代の指導に携わり、これまでの過程で得た学びを伝えていきたいと考えています。

最後に、家族、友人、先生方をはじめ、これまで支えてくださったすべての方々に感謝申し上げます。本当にありがとうございました。



体操競技部

◆令和7年度 全国高等学校総合体育大会 出場

団体 (塚本 啓心、藤下 航太郎、本田 稜汰、水谷 優太、松本 匠生、稲倉 雄太)
個人 (田中 瑛)

『再出発』

総合学科3年 塚本 啓心

2年のインターハイ地区予選、跳馬の着地で足元が一瞬で崩れ、そのまま倒れ込んでしまいました。何が起きたのか分からないまま救急車で運ばれていきました。診断は腓骨と脛骨の骨折で、手術をして足に金具を入れることになりました。やっとの思いでチームメンバーに選ばれたのに、目の前が真っ白になり、涙が止まりませんでした。顧問の先生や先輩、後輩からたくさん励ましてもらいましたが、その時の僕には届かないほど、悔しさと絶望でいっぱいでした。競技に復帰するまでの道のりは、想像以上に長くて苦しかったです。思うように動かない体に焦りと痛み。何度も心が折れそうになりました。それでも、「インターハイの舞台に立ちたい」という気持ちだけは、ずっと消えませんでした。3年になり、キャプテンとして迎えた最初で最後のインターハイ。チームの目標は「チームで決勝進出」でしたが、仲間と頑張ってきたものの、その夢はあと一步届きませんでした。キャプテンとしての責任を感じ、申し訳なさや悔しさが胸がいっぱいになりました。それでも個人で決勝に進めると知った時、「最後までやり切ろう」と気持ちを切り替えました。全部員の想いを背負って演技に臨み、結果は自己ベスト。悔いなく大会を終えることができ、自分自身の復活を実感できました。

1年の秋、火災で体育館を失ってから、近隣の学校やクラブ、保護者の皆さんに支えてもらいながら練習を続けてきました。3年の秋には新しい練習場所ができ、自分たちの手で器具を設置し、「名城体操競技部」は再スタートを切ることができました。どんな時も支えてくださった顧問の西村先生やコーチの出井先生、仲間、家族、そして関わったすべての人への感謝を忘れず、これからも前を向いて進んでいきます。



陸上競技部

◆第78回 全国高等学校陸上競技対抗選手権大会 出場 走幅跳・三段跳 (森川 陽介)

『真剣に向き合うこと・感謝の気持ち』

普通科3年 森川 陽介

2年生の12月の合宿で、それまで自分自身の心の内に秘めていた（インターハイで優勝する）という目標を初めて周囲に公言しました。周りに伝えたとき、悔しさと涙が込み上げてきました。心のどこかで優勝することはできないと、悟っていてそのことがすごく悔しかったのを覚えています。

その悔しさから、「こんなに弱い自分を変えたいと思い、絶対に優勝してやる」と自分に覚悟が決まり行動が変わりました。

今までよりも自主練習やカロリーや食事に気を使い、トレーニングについて学び、競技に向き合うようになりました。走幅跳と三段跳で2種目での全国出場は、今までにいないと顧問の先生に褒めていただきました。3回の跳躍のうちに結果がだせないと競技が終わってしまう競技で、いつも3回目に結果をだせました。(3回目までに跳ばないと予選落) こんな追い込まれた状況でいつも結果をだせたのは、なぜなのか?と後輩に聞かれ、3回目の跳ぶ前に、きつい練習してくれる仲間に恩返したい感謝の気持ちで跳躍しました。リラックスできて良い結果を出せたと思っています。

全国インターハイでは優勝はできませんでしたが、競技に真剣に向き合えたこと、仲間を信じて頑張れたことを心に刻み、これからも頑張ります。

最後に、真剣に競技に取り組む環境を整えてくれた家族や先生、どんな辛い時も一緒にトレーニングや声をかけてくれる仲間、すべての人に感謝をしたいと思います。ありがとうございました。



ダンス部

- ◆USA Nationals 2025 出場
Song/Pom部門Medium A 第5位 (CallaA)
- ◆全国高等学校ダンスドリル選手権大会2025
Jazz部門 優勝
Lyrical部門 審査員特別賞
ソロ部門 第8位 (新家 かほ)

『仲間』

総合学科 3年 新家 かほ

私は中学生の時、新体操という競技をやっていました。高校進学にあたり、そのまま新体操を続けるという道も考えました。しかし私は、リボンなどの道具を使って踊るよりも、自分の体ひとつで踊って表現することの方が好きなのだとということに気づき、ダンスの道に進むことを決めました。

引退した今、私は「この道を選んで良かった」と心の底から思っています。私の高校生活は、ダンス部とそこから生まれた貴重な出逢いがあったからこそ充実したものになりました。

私にとって一番大きな出逢いは、同期のメンバーです。入部した時から引退まで、泣いたり笑ったりしながら一緒に高め合ってきました。そして、大会と一緒に出た先輩、後輩との出逢い、日々私達の為のことを思ってお指導して下さいました顧問の先生方、コーチにも感謝しています。どんな時でも寄り添い、応援してくれた両親にも感謝しています。

私が3年間でもっとも印象に残っているのは、やはり最後の全国大会です。私達のチームはジャズ部門での4連覇がかかっていました。しかし、予選の時点での順位は3位。通過順位を知ったときはとても悔しくて、絶対に連覇を途絶えさせたくない気持ちが強まると同時に、部長としてのプレッシャーも感じました。そして迎えた本番。良い演技ができたときにしか感じられない、全員の気持ちが一つになった瞬間というか、不思議な感覚がありました。演技が終わって欲しくないくらい楽しく、本当にあっという間の二分間でした。

演技後に全員で抱き合った時に見た部員の笑顔は、今までで一番心に響くものでした。3年間、苦しいことや大変な練習もありましたが、どんな時でも仲間を信じて諦めずに走り続けてきたからこそ、あの瞬間に出会えたのだと思います。

最高の仲間と共に、4連覇という最高の結果を取ってダンス部生活に幕を閉じることができたのは私の一生の思い出であり、宝物です。



SSH

*詳細（概要）は、8p をご参照ください。

新任教諭 (令和7年4月採用) 紹介



はっとり たいち
服部 平知
(数学)

退任教諭 (令和8年3月末) 紹介



くろやなぎ やすゆき
黒柳 康之
(英語)
昭和58年～在職

1983年(昭和58年)4月、大学を卒業したばかりの22歳。朝の南校庭で新幹線を背に指令台へ上り、男子ばかりの学生服2000人を前に着任の挨拶をしました。あの圧巻の真っ黒な集団も、気がつけば還暦に近づく年齢になりましたね。私はたまたま定年が65歳ですが、世間的には60歳定年の方がまだ多いのではないのでしょうか。ということは、私と同時に「定年後ライフ」の始まりです。耐え難きを耐え、忍び難きを忍んできた反動を糧に、一緒に一気に弾けましょう。

メンタルが超弱い私が今日を迎えられたのは、担任や授業担当クラスの生徒の皆さんはもちろん、すれ違いざまに「こんにちは」と挨拶を交わしただけの人たちも含めた「全名城生」のおかげだと感じています。これは先輩から後輩へと脈々と受け継がれてきたスクールカラーの一つでしょう。辛くて気が滅入ることも多々ありましたが、凹んだ気持ちになるたびに、皆さんの癒しの力に助けられました。心から感謝しています。

気づいていないかもしれませんが、皆さんのヒーリングパワーは一級品です。皆さん一人ひとり、そこにいてだけで、必ず誰かの力になっています。どうか今後とも「愛される名城生」として、身につけたスクールカラーを大切に守り続けてください。Good Luck!



おかだ ひろし
岡田 博史
(社会)
令和3年4月～在職

昨秋、中学時代と高校時代の学年同窓会に参加しました。いずれの会も当初は5年前の還暦の年に合わせて計画され、コロナ禍のため延期されていたものです。それぞれ全国各地から150名を超える同級生が集い、久闊を叙す良い機会となりました。長い人生の中には仕事を通じて仲良くなる人も大勢います。しかし、先輩でも後輩でもなく、上司でも部下でもないフラットな関係である同級生と過ごす時間の心地良さをこの年齢になると

実感します。

みなさんも、高校生活の今、この時を大切に過ごすとともに、まわりにいる同級生とのつながりを生涯大切にされると良いと思います。

5年間、大変お世話になりました。ありがとうございました。



こんどう ひとし
近藤 均
(国語)
令和3年4月～在職

名古屋の中学校を退職後、渉外室で5年間お世話になりました。

座右の銘、というと大げさですが、以前から自分が大切にしている「和氣致祥」という言葉があります。「穏やかな気持ちが幸せをもたらす。心を一つにすれば幸せがくる。」といった意味で、前漢の学者の言葉だそうです。今は、他人に心ない攻撃をしたり封殺したりしようとする風潮が加速しているように思えますが、「和氣致祥」は、「大切なのは、結局人の心である」という、

いわば「人の人としてのあり方」が紀元前から変わらないことを示している言葉だと思います。

皆様が「心」を大切に、より幸せな世界を築き上げていくために活躍されることを願っています。本当にありがとうございました。

「学年同窓会」開催しました

私たちは昭和 50 年度卒業生で、1 年生から 3 年生まで同一クラス・担任は堀尾雅明先生でした。一体感・絆が深く、大変思い出深いクラスです。

我々は「堀尾組」と称して卒業以来、ほぼ毎年クラス会・旅行等を行っております。

今年開かれたクラス会が 50 回記念を迎えました。

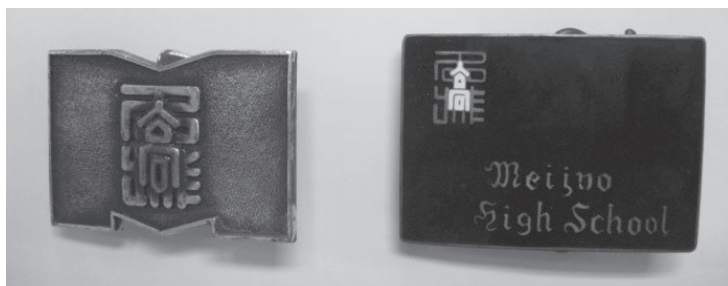
半世紀の間、他界した者もありますが、その年のクラス会では故人を偲んで開催してまいりました。

今後も深い絆で結ばれている仲間たちで、名城大学附属高等学校の発展を応援していきたいと思っています。



「名城大学附属高等学校ゆかりの物品」寄贈のお願い

同窓会事務局では、令和 8 年の開学 100 周年に向け本校ゆかりの物品の収集を始めました。ご家庭の押入れ等で眠っている附属高校ゆかりの物品がありましたら、ぜひお知らせください。



◀写真は、諏訪宏和先生（第 13 回生 昭和 36 年 3 月機械科卒業平成 16 年 3 月退職）から寄贈いただいた卒業記念品のベルト用バックルです。
写真左は 1962 年のもの、右は 1959 年定時制のものです。

学校法人名城大学への募金・寄付について

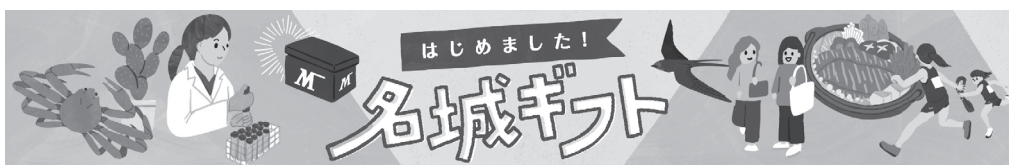
学校法人名城大学では、2026年に開学100周年の節目を迎えるにあたり、次の100年に向けて、「中部から世界へ 創造型実学の名城大学」という将来ビジョンを策定しました。それに伴い、開学100周年事業（大学における全学共用棟新築・国際化の推進等）を実現させるため、「名城大学開学100周年記念募金」を始めました。

皆さまには、未来を担う生徒・学生たちのために、何卒力強いご支援を賜りますようお願い申し上げます。

名城大学開学100周年特設サイト
<https://www.meijo-u.ac.jp/100th/>



■名城大開学100周年記念募金 返礼品付寄付サイト「名城ギフト」



上記「名城大学開学100周年記念募金」の一環として、2023（令和5）年4月3日から返礼品付寄付サイト「名城ギフト」を開始いたしました。

本学オリジナルグッズや多様な品を約60点用意しておりますので、ぜひご利用ください。

【お問合せ先】名城大学渉外部渉外課 TEL：052-838-2066 MAIL：ookouyu@ccml.meijo-u.ac.jp



名城大学附属高等学校同窓会執行部会を開催しました

令和8年1月19日、名城大学附属高等学校同窓会執行部会を開催しました。

本会では、同窓会ニュースの編集方針や周年記念事業の企画、今後の行事予定、会員サービスの充実策などについて協議を行いました。

各委員から活発な意見が出され、今後の同窓会運営に向けた方向性を共有する有意義な機会となりました。

今後も、卒業生同士のつながりを深めるとともに、母校の発展に寄与できるよう、執行部一丸となって取り組んでまいります。



令和7年度事業報告

令和7年度中に実施した行事等は、下記のとおりです。

月 日	行 事 内 容	月 日	行 事 内 容
1.29	スキー部 (全国高等学校総合体育大会出場) へ激励金交付		体操競技部 (全国高等学校総合体育大会) へ激励金交付
	柔道部 (全国高等学校選手権大会) へ激励金交付		ダンス部 (全国高等学校ダンスドリル選手権大会) へ激励金交付
2.4	令和7年度執行部会		陸上競技部 (全国高等学校総合体育大会) へ激励金交付
2.28	令和6年度附属高等学校卒業式 (令和6年度同窓会表彰)		空手道 (全国高等学校総合体育大会) へ激励金交付
4.3	令和7年度附属高等学校入学式		スーパーサイエンスハイスクール生徒研究発表会出場者へ激励金交付
5.16	令和7年度生徒会へ援助金交付	8.25	メカトロ部 (WRO2025 Japan決勝大会) へ激励金交付
	第2体育館復興支援 (寄付)	10.9	文化祭にて同窓会企画「母校の歴史をたどるパネル展示」開催
	開学100周年記念アリーナ 椅子銘板基金への寄付	10.29	国際大会 (柔道) 出場に伴う激励金交付
6.17~20	名城オリンピック 在校生へ麦茶寄贈	12.18	国際大会 (バントワーリング) 出場に伴う激励金交付
7.18	ウエイトリフティング部 (全国高等学校総合体育大会出場) へ激励金交付	12.18	全国高校生フォーラム出場に伴う援助金交付

令和7年度 収支決算

令和8年度 事業計画

令和7年1月1日～令和7年12月31日

収入額 49,025,246円 支出額 4,375,887円 翌年度繰越金 44,649,359円(現金:249,246円)

● 収入の部 (単位: 円)

科 目		予 算 額	収入済額	増 減	備 考	
款	項 目					
収入	繰越金	繰 越 金	42,411,344	42,411,344	0	
	会 費	会 費	6,370,000	6,560,000	190,000	令和7年度入会金 @10,000×659名 ※うち、3名は入学辞退による返還発生
		預金金利	5,500	53,902	48,402	利息
	雑収入	雑 収 入	0		0	
		小 計	5,500	53,902	48,402	
	貸付金	貸付金回収収入	0	0	0	教育活動支援回収分
	合 計		48,786,844	49,025,246	238,402	

● 支出の部 (単位: 円)

科 目		予 算 額	支出済額	予算残額	備 考	
款	項 目					
支出	事業費	事 業 費	17,200,000	893,359	16,306,641	事業関連費用、熱中症対策の 為の寄贈、記念事業積立金等
		資料等刊行費	1,000,000	588,948	411,052	会員名簿、同窓会しおり・ニュース等
		表 彰 費	1,000,000	218,550	781,450	令和6年度模範生表彰等
		援 助 費	3,000,000	1,504,720	1,495,280	令和7年度生徒会援助、 令和7年度高校総体・国体等
		教育活動支援費	1,000,000	0	1,000,000	教育活動の支援
		特別援助費	1,000,000	1,000,000	0	第2体育館火災の支援
		小 計	24,200,000	4,205,577	19,994,423	
	運営費	慶 弔 費	400,000	77,000	323,000	供花香料等
		会 議 費	500,000	0	500,000	諸会議費用等
		雑 費	1,300,000	93,310	1,206,690	通信費、事務費、監査費、 振込手数料等
		小 計	2,200,000	170,310	2,029,690	
	貸付金	教育活動支援費	2,500,000	0	2,500,000	経済的困窮者支援
	予備費	予 備 費	19,886,844	0	19,886,844	
	合 計		48,786,844	4,375,887	44,410,957	

事業基金積立および準会員への援助支援の協力の継続と100周年事業の実施と、記念総会の準備を行う。

令和8年度 収支予算

令和8年1月1日～令和8年12月31日

● 収入の部 (単位: 円)

科 目			予 算 額	備 考
款	項 目			
収入	繰越金	繰 越 金	44,649,359	令和7年度収支決算【収入の部】収入済額合計(49,025,246円)と【支出の部】支出済額合計(4,375,887円)との差額
	会 費	会 費	6,370,000	令和8年度入会金@10,000×637名
	雑収入	預金金利	55,000	利息
		雑 収 入	0	
		小 計	55,000	
	貸付金	貸付金回収収入	0	教育活動支援回収分
	合 計		51,074,359	

● 支出の部 (単位: 円)

科 目			予 算 額	備 考
款	項 目			
支出	事業費	事 業 費	17,200,000	記念事業積立金等【周年事業費】
		資料等刊行費	1,000,000	会員名簿、同窓会しおり・ニュース等
		表 彰 費	1,000,000	令和7年度模範生表彰等
		援 助 費	3,000,000	令和8年度生徒会援助、令和8年度高校総体・国体等
		教育活動支援費	1,000,000	教育活動の支援
		特別援助費	1,000,000	100周年生徒会事業援助
		小 計	24,200,000	
	運営費	慶 弔 費	400,000	御祝、見舞、供花香料等
		会 議 費	500,000	諸会議費用等
		雑 費	1,300,000	同窓会室整備費(300,000円)、振込手数料(10,000円)通信費 等
		小 計	2,200,000	
	貸付金	教育活動支援費	2,500,000	経済的困窮者支援
	予備費	予 備 費	22,174,359	
	合 計		51,074,359	

本報告書に基づき諸帳簿および証拠書類と対照し精査したところ正確で遺漏のないことを認めます。

令和8年1月19日 監 査 鈴木 礼治 長尾真里子 荒木 玲子

校歌



校歌

河合逸治 作詞
信時潔 作曲

一、朝日に匂ふ鈴鹿嶺

希望に燃ゆる若人が

学理の泉汲むところ

次代を築く栄になふ

名城 名城 自由の学府

おゝ名城

二、力と技を競ひつゝ

正しき理想花と咲く

其の意気天を衝くところ

獅子の王座は我にあり

名城 名城 自由の学府

おゝ名城

三、歴史に尚き名城の

文化の精華享け継ぎて

真理の道を践むところ

健児の行手光あり

名城 名城 自由の学府

おゝ名城

卒業生のご家庭を狙った特殊詐欺について

昨年以降、本校卒業生のご家族を狙った、いわゆる「オレオレ詐欺」をはじめとする特殊詐欺事案が、複数件報告されております。

なお、本校および同窓会が、電話等により金品の請求を行ったり、個人情報の提供を求めたりすることは一切ございません。

同窓生の皆さまにおかれましては、どうかこの点をご周知いただくとともに、ご家庭やご親族の皆さまにも十分ご注意くださいようお願い申し上げます。

編集後記

今回の同窓会ニュースは、冒頭のとおり、第50号となりました。

そして、本年は名城大学・名城大学附属高等学校の前身となる「名古屋高等理工科講習所」の開学100周年を迎える輝かしい年になります。

その節目の年に、本号を発行できましたことは、ひとえに同窓生の皆さまのご支援とご協力の賜物であり、深く感謝申し上げます。

本誌に寄せられた一つひとつの言葉から、母校を思う心の確かさと、同窓の絆の強さをあらためて感じました。

これからも、本誌が過去と現在、そして未来をつなぐ記録として、皆さまのもとに届き続けることを願ってやみません。今後とも変わらぬご厚情を賜りますようお願い申し上げます。



同窓会会員の皆さまへ

会員の皆さまの個人情報について、会報（同窓会ニュース）や各種行事等のご案内の送付および同窓生の支援をするため以外で、本会が使用またはお尋ねすることはございません。

ご氏名やご住所の変更がございましたら、ご卒業の年月・学科、氏名・フリガナ（新旧）、生年月日、新住所・電話番号を、下記までお知らせください。

また、大学や社会で活躍中の同窓生について、ニュースをお寄せくださるよう、お願いします。

名城大学附属高等学校同窓会 事務局 Tel 052-481-7436 dousoukai@meijo-h.ed.jp